

最新のがん治療対応

琉大医学部 機能画像診断センター完成

1センチ以下の細胞発見

西原町の琉球大学医学部にこのほど、最新のがん治療に対応する「機能画像診断センター」が完成した。自覚症状が現れる以前の、1センチ以下のがん細胞を発見できる最新のPET（陽電子放射断層撮影装置）を導入した。3月15日に開業予定。

最新のPETは、がん細胞に反応する特殊な検査薬を患者に投与し、小さながん細胞も発見が可能。がん細胞が、急激な増殖を始める前の1センチ以下の状態で治療ができ、がん完治に有効な手段とされている。

従来機より安全性を高め、診断画像を高画質化。検査には医療機関の紹介が

必要。保険診療適用で年間3千人の利用を目指す。

重粒子線がん治療は、放射線の一種の重粒子線をがん病巣に照射し、ダメージを与える。体内に入った後で線量を増やせるため、周囲の正常細胞を傷つけにくく、患者の肉体的な負担が少ないとされる。同センターは、重粒子線

がん治療を進める放射線医学総合研究所（千葉県）と職員交流などで連携。重粒子線治療にかかる費用や治療可能ながんなどの情報を提供していく予定。

「重粒子線」を使った最新のがん治療を進める専門施設に職員を派遣し、将来は県内で「重粒子外来」の設置を検討する。

センターは鉄筋コンクリート4階建て。公共サービスに民間資金や技術を取り入れる官民連携事業で、琉大病院と株式会社ハイモが総事業費19億円で建設した。



最新PETを備えた「機能画像診断センター」＝西原町・琉球大学医学部